

# 導水路事業の影響討論

## 岐阜市で市民団体が集会

徳山ダムの水を揖斐川から長良川、木曾川へ流す「木曾川水系連絡導水路事業」を巡り、長良川の環境改善を目指す市民団体などでつ



「木曾川水系連絡導水路事業」を巡り、討論する市民団体関係者や有識者ら＝岐阜市長良福光、長良川国際会議場

くる「よみがえれ長良川実行委員会」は11日、討論集會を岐阜市長良福光の長良川国際会議場で開いた。環境や費用など、導水路事業の影響について意見を出し合った。

名古屋市の河村たかし市長が今年2月に事業の容認姿勢を示したことを受けて開催し、市民団体の関係者や有識者ら約100人が参加した。

岐阜大地域科学部の向井貴彦教授（保全生態学）が講演を行い、環境への影響などについて解説。「（導水路事業で）揖斐川から長

良川方向に水が入るのは、生き物には大きな影響はないかもしれない。ただ、水質は気になる。徳山ダムの水は、公表されている水質の数値は悪くないが、ほぼ毎年淡水赤潮やアオコが発生する。水質的には懸念があることは間違いない」と指摘した。

意見表明で「長良川河口堰建設に反対する会・岐阜」事務局の堀敏弘さんは「徳山ダムの水を入れて、長良川の水をPRするのかが、本当に岐阜県のためになるのか議論してほしい」と訴え、「徳山ダム建設中止を求める会」事務局長の近藤ゆり子さんは徳山ダム自体の効果について疑問を示した。

討論では、今後どのよう

な行動をしていくかについて意見を交わした。岐阜大名誉教授の富樫幸一さんは「住民の意見を聞かずに、関係自治体だけで押し切ろうとしている。さまざまな立場の市民の声を反映できる仕組みを求める必要がある」と話した。

（岡部導智賢）